

【ポスター発表】

## インターネット・電子メールの利用と生活満足度の関係

○ 東京都健康長寿医療センター研究所 深谷 太郎 (4668)

杉原 陽子 (首都大学東京・4670)、杉澤 秀博 (桜美林大学・4671)

小林 江里香 (東京都健康長寿医療センター研究所・3755)

キーワード3つ：高齢者、生活満足度、ITC

## 1. 研究目的

現在の生活においてインターネットは必要不可欠なインフラとなっている。情報検索や電子メールといった利用以外でも、最近ではインターネットを使った高齢者の見守りシステムなども開発されつつあり、人はその場にいながらにして実質的にはほぼ無料で多量の情報を入手できるようになった。特にスマートフォンの登場は、日本人の生活に大きな変革をもたらせた。スマートフォンは従来、固定電話や携帯電話、手紙やFAXといったコミュニケーションをほぼ1台でまかなうことができる。それに加え、従来は紙の本や新聞、雑誌、切符や定期、地図、ゲーム機、辞書、カメラ、携帯型音楽プレーヤー等々といった役割を果たすスマートフォンは、日本人の生活を変えたといっても過言ではないだろう。

このような流れとはあまり縁が無いと思われる高齢者においてもインターネットの利用率やスマートフォンの所持率は年々増加している。

では、このインターネットや電子メールは、高齢者はどの程度使いこなし、それが生活にどのように影響を与えているのであろうか。もちろん、個々の高齢者の例をみれば、blogをしたりTwitterをしたりといった、ITに習熟した高齢者がおり、しばしばニュースとなっはいる。しかし換言すれば、そういう高齢者が少ないからこそニュースになるとも言え、多数の高齢者にとってはインターネットや電子メールの影響は非常に限定的である可能性がある。

そこで、本研究ではインターネットや電子メールの利用が生活に与える影響について、マクロな視点から把握することを目的としている。

## 2. 研究の視点および方法

1) 分析対象：本研究は、東京都健康長寿医療センター研究所、東京大学、ミシガン大学が行っている全国調査のデータを用いた。全国調査プロジェクト自体は1987年から行われており、1987年からのデータがあるが、インターネットのと電子メールの利用は2012年に新規に対象となった高齢者のみに質問したため、本研究は2012年に行った調査のデータのみを用いた横断研究である。2012年の新規対象者は2012年8月末時点で60～92歳の男女を対象とし、全国を地域ブロックと人口規模に基づいて層化した、層化二段無作為抽出法により住民基本台帳から2,500人を無作為抽出した。調査は2012年9月～12月

に訪問面接法により行い、本人回答による完了は1,324人（死亡や施設入所を除く回収率は53.8%）であった。このうち、性・生年月日などを尋ねる9項目の簡易認知機能チェック項目で、正解が4問以下であった28名については、認知症の疑いもあり、回答内容に信頼がおけないため、分析から除外することとし、残る1,296人のうち、分析項目に欠損のない1,118人～1,190人を分析の対象とした。

2) 分析項目：生活満足度については、総合的な満足度として人生満足度尺度Aのうち「今が自分の人生で一番幸せな時だ」「私は、自分の人生を振り返ってみてまあ満足だ」「これから先にもおもしろいこと、楽しいことがいろいろありそうだ」の3項目について3択で尋ね、の合計点数総合的QOLとした。また、領域別の満足度として、健康、家族、友人、生活の4つの満足度を尋ね、「非常に満足している」から「まったく満足していない」の5択で尋ねた。回帰分析の独立変数としては性、年齢、学歴、婚姻状況、主観的健康状態、抑うつ、就労、親しい友人数、親しい近隣数、参加グループ数、孤独感、主観的家計状況、電子メールの利用、インターネットの利用を用いた。

3) 分析方法：総合および領域別の満足度を従属変数とした重回帰分析を行った。

### 3. 倫理的配慮

調査を行う前に、発表者の所属する研究機関において倫理委員会の承認がされ、質問において倫理上問題のある項目がないことが確認されている。また、調査のサンプリングから実査までを調査会社に委託した為、誰が対象かという情報を研究者は所持してない。加えて、回収された調査票および電子化されたデータには、対象者氏名、対象者の生日、居住都道府県・市町村名は記載されておらず、調査対象者の個人情報漏れる可能性はない。

### 4. 研究結果

インターネットの利用は健康の満足度と関係している傾向が見られたが、それ以外は有意ではなかった。電子メールについては、友人との満足度についてのみ有意な関係が見られた。

### 5. 考察

インターネットの利用については有意な項目が無かったことから、高齢者はインターネットの恩恵をあまり感じていないと思われる。ただ、インターネットを利用している人は健康満足度が高い傾向があり、健康などの情報を入手することで満足度を高めている可能性がある。

一方、電子メールについては、電子メール利用者は友人の満足度が高くなっていたことから、高齢者であっても友人の連絡には電子メールは必要な手段となっているといえる。ただ、インターネットが友人との満足度と関係が見られないことから、SNS（テキストチャットなどを含む）の利用は、まだ高齢者には浸透していないと思われる。

この傾向については、現在SNSを利用している世代が年齢を重ねるにつれ変化する可能性が高く、今後は状態が変化する可能性が高いと思われる。